

令和2年度第2回宮代町立小・中学校一貫教育推進委員会の
会議録

1 日時・場所

令和3年3月9日（火）15:00～16:00

役場庁舎202会議室

2 出席者

審議会委員：15名出席

上田委員長、小島委員、高野委員、山口委員、小山（嶺）委員、白石委員、
瀬田委員、鈴木委員、但木委員、杉村委員、別所委員、金子委員、大和田委
員、上野委員、斎藤委員

事務局：中村教育長

教育推進課：竹内指導主事、加藤指導主事

3 開会

4 挨拶

教育長及び上田委員長から挨拶

5 議事

令和2年度教育行政重点施策の「中学校区を中心とした特色ある小中一貫教育の推
進」について説明後、各中学校区の実践について資料を基に発表があり、その後、協議
を行った。

上田委員長：各校の発表ついて、御質問、御意見のある方はいらっしゃいますか。斎藤委
員さんいかがでしょうか。

斎藤委員：今年度から前原中学校でお世話になっておりまして、昨年まで、8年間百間小学
校に子供ともどもお世話になりました。小中一貫教育推進会議にも何度も出席させていた
だいてきたのですが、校長先生方の話を聞くたびに、連携ということの心強さに保護者とし
て心強く思っています。子供を通して先生方の温かさをご指導のことも、PTAの活動を通し
て、学校に通うということで先生方の教えもありまして、愛情ある教育を受けられていると
思いました。私の子供にも学校の魅力が届いているのだなと感じている。校長先生や先生方
から温かい言葉をいただいている。支えられ前に進もうと親子でがんばれる力がいただけ
る。今後も小中一貫の取り組みを期待しています。

杉村委員：宮代町の地域性が小中学校に生きている。私は八潮出身で、八潮は学校が多く、
私の通っていた中学校も大きくて小中一貫とういものはなかった。小中一貫は、丁寧な育ち
ができるので、子供たちにとっても魅力的だなと、それは立地と制度と地理的なものがある
のだなと、その中で子供たちがお世話になれるのはありがたいなと、それをしっかり生かし
て、暮らしていきたいなと感じている。私も小中一貫を応援しながら、いい形で推進され周
りの人たちが支えてくれるといいなと思っています。

上野委員：何年もこの会議に参加させていただき、校長先生、先生たちの努力が毎年毎年す

ごいなということを感じていました。PTAとして、宮代町外にでてほかの地区の人と話すことがあるのですが、小中一貫のことを話せる地域はなかなか無いようで、会長が知っていることがすごいと言われる。いつも聞いているので「宮代はこうだよ」と、言ったりすると、「そうなんだ」という声を聞くことが多いです。地域の方と小中一貫の話をする機会があって、「こういった取り組みをしている学区がありますよ」と話をすると、地域の方も知らないことがあって、「そういう教育をやっているんだ、そうしたら子供たちも安心できるよね」という言葉を地域の方からいただきました。宮代の小中一貫教育というものは、どこにいても誇れるものだと思うし、コロナ禍の中で、子供たちがすてきな笑顔で毎日を過ごしている。先生たちに温かい目で見守っていただき、子供たちの成長を毎日楽しみしています。

瀬田委員：毎回他の学校の実践例をうかがうことができ、自分の学校の刺激になり、参考になります。須賀中の合言葉「全力」の中で、全力とは何か、何をすべきか、今できることは何か、誠心誠意、心をこめて努力することと捉えている。コロナ禍で今すべきことは何か、できることは何か、考えて取り組み本校の場合、実践例は3つしかないのですが、今年子供たちを伸ばしていくために一番にできることではないかと思い取り組んできました。他の学校を見てみると島村盛助を顕彰する会など、できることから考えて取り組まれていて、横の連携を密に取りながら、来年できることは何なのか、探っていけたらいいと思います。須賀小中は隣りあわせなので、他にも一貫してできることはあります。例えば、朝小学生がグラウンドで遊んでいると、そこに中学校の体育の教員が行って、鉄棒を教えてあげたり、一緒に縄跳びを飛んだり、隣りあわせだからできる連携が今年もありました。小学校の先生が、中学生が小学校の敷地内を歩いて体育館に移動するとき、卒業した生徒に声掛けをして、「あなただらしな服装している。」「声がちいさい。」などと言ってくれるので、連携していると感じる。それから、施設の共有ができ、小学校の体育館を毎日使える。マイクスタンドが足りないとき小学校の先生から「出しときますから使ってください。」など、日常の会話の中から、教職員の交流があり、それだけでも、連携がうまく取れていると思っている。隣接しているからこそその、小中一貫と思っている。これからも、できることを探してやっていきたい。

白石委員：今年度は、子供たち同士の交流、教職員同士の交流ができない状況でありました。ただ、年度当初に内容の共通理解ができ、学校の中の教育プランに位置づけられたことは大きなことで、教職員にも共通理解できたことは大きく、浸透させる意味で良かった。交流は今年度なかなかできなかったのですが、できることを探りながら、やり方を工夫すればできることはもっともっとあるのではないかと考えています。コロナ禍でも、教職員の意見を聞きながら吸い上げて今後工夫していくことと、ICTをうまく活用することができると、もっと何かができるのかと考えています。

嶺委員：教務主任の時に、須賀小中の小中一貫教育の発表を見に来たことがあります。宮代町に勤務することになって、教育長からも小中一貫に宮代は力を入れているとお話をうかがっていて、今回に参加させていただきました。小中一貫の取組が、ずっと続いて行って

いて、とても大事なことだなと思いました。小学校から中学校、その先も地域の中で生きていくわけで、小学校で15歳の卒業する時の姿を思い浮かべながら、小学校、中学校で考えながら諸活動をやっていくことは大事だと思いながら仕事に取り組んでいました。

山口委員：交流は難しかった1年でした。先日、小中の校長教頭が集まって、今年度の総括来年度に向けて何ができるのかの話し合いの場を持ちました。昨年度の4月の状況と今の状況を比べてみると、4月は何が何だかわからない状況だったのが、段々と見えてくるものがあった。その中で、できるものを一つ一つ進めていこうと確認をし、Mプランについても手直しをして今日提出をした状況です。根幹に流れている小中9ヶ年間を見据えた一貫した教育、さらに、小学生から見た中学生への憧れ、中一ギャップの解消、中学生からすると自尊感情を高めていく、この辺りの柱については、今後もぶれずに小中一貫教育が宮代町推進できること、これが大事なことはないか考え取り組んでいきたい。

小島委員：今この場で情報を聞けて、宮代町もコロナ禍でどんなことできているのかな、どんな苦労があるのかなと思っていましたが、改めて宮代町の校長先生、先生方素晴らしさを感じています。交流とか話し合いとか取り組むことが難しい中で、自分たちができることを探って、臨んでいることを大変感銘しました。6年間を通した教育活動で、小学生はやはり中学校への憧れ、不安から安心感を持つように、中学生は自尊感情を、自分が自信をもって次に進める。今年度だけでなく、今までの積み重ねでどんどん良い方向へ向かって行っているのではないかとうれしく思います。大事なことは、これからも先生方のみで意識をもって臨むのではなくて、子供たち自身がこの活動に意識を持って自分たちのものとして活動に臨んでいくことが、とても大事なことではないかと感じています。これからの活動も期待できるのではないかと楽しみにになりました。コロナ禍で、先生方大変ではないかと頭の下がる思いですが、これからも期待しています。

上田委員長：各学校取り組んでいる、苦労されていることがよく分かりましたし、宮代の取り組みを自慢したいなと思っています。Sプランに協力したいことがあります。今年、須賀中、須賀小の特別支援学級の交流会に招待されたのですが、私の畑の大根とジャガイモを毎年単独で特別支援学級の子供たちが来ているのですが、今年はコロナ禍だったので、一緒にできませんでした。来年度は一緒にやれば心の交流にもなるのかなと思うので、来年度はジャガイモと大根だけでなく玉ねぎも提供します。交流していただければ、これも一貫教育になるのかなと思います。最後に、格言で「継続は力なり」と言われます。継続ばかりでは下降しますので、継続し積み重ねることが大事だと思います。何事も一歩から、一貫教育は、一年で、二歩も三歩も進むものではありません。一歩が精一杯または、半歩かもしれません。0.1歩からでもいいのでは。ちょっとでも前に進んだら成果と言ってもいいのではないかなと思います。

6 その他

事務連絡

7 閉会